

長野県浅間山系のトウミトウヒレン

会長 勝山 輝男

2019年度の宿泊例会は8月23～24日に長野県東御市の池の平湿原と高峰山に行きました。その際、池の平周辺や高峰山のダケカンバ林内や風衝草地などに生えるキク科トウヒレン属植物が話題になりました。

浅間山系の代表的なトウヒレン属にはアサマヒゴタイ *Saussurea savatieri* Franch. et Sav. があります。アサマヒゴタイは箱根に多いキントキヒゴタイ *S. sawadae* Kitam. に似た種類でときに同種として扱われることがあります(Im 1989, Koyama 1995)。問題のトウヒレン属植物は総苞片が直立し、先が尾状に長く尖るので、総苞片が徐々に尖り、先が反り返るアサマヒゴタイとは明らかに異なります。また、アサマヒゴタイはブナ帯域の植物で標高2000m前後の池の平や高峰山は標高が高すぎると思いました。

地元の植物観察ガイド(柳沢 2011)にシラネアザミ *S. nikoensis* Franch. et Sav. が出ていたので、とりあえずシラネアザミであろうと解説しました。ところが、会員の一人からトウミトウヒレンというものを門田先生が記載されたということを知りました。問題のトウヒレン属はトウミトウヒレンという未知の種の可能性がでてきたので宿題として持ち帰って調べることになりました。

自宅に帰るとすぐ改訂新版日本の野生植物 5巻のキク科トウヒレン属のところを読んでみました。トウミトウヒレン *S. mihoko-kawakamiana* Kadota が出ており、記述や掲載写真など池の平や高峰山のトウヒレン属植物に一致していました。問題のトウヒレン属植物はトウミトウヒレンで間違いなさそうです。

シラネアザミは頭花の柄が短く、総苞外片が大きくて幅広く、総苞片の先は短く反曲するもので、池の平や高峰山のトウヒレン属とは異なっていました。分布も吾妻山・磐梯山・那須連峰・日光山地・苗場山となっていて、浅間山系は含まれていません。

トウミトウヒレンは Kadota(2017)により箬の戸山の標本を基準標本として記載された浅間山系の固有種です。ヤハズヒゴタイ *S. triptera* Maxim. に似て、茎にほとんど翼がなく、葉身は狭卵状三角形で基部は浅い心形～切形、頭花は柄が長く疎らな総状花序につき、総苞は筒状～鐘状でより大きく、総苞片は 8～9 列で先は尾状鋭尖頭とされました。奥秩父に分布するキンブヒゴタイ *S. kinbuensis* Nakai

にも似るが、キンブヒゴタイは総苞がより幅狭くて短く、片は 5 列なので区別できるそうです。

川上(2018)によると、浅間山系ではアサマヒゴタイが標高 700m～1700m(平均 1300m)に、トウミトウヒレンが標高 1600m～2212m(平均 2125m)に生育するそうです。丹沢山地の標高 1300m以下にキントキヒゴタイ、それ以上の高地にタンザワヒゴタイが生育するのに似ています。

地元ではトウミトウヒレンをアサマヒゴタイと混同していたそうです(川上 2018)。柳沢(2011)にシラネアザミとシラネヒゴタイの名で、今井(1992)にシラネアザミの名でトウミトウヒレンの写真が掲載されていることから、トウミトウヒレンはこれらの種とも混同されてきたと考えられます。

今回、トウミトウヒレンとの比較でキンブヒゴタイに触れましたが、この植物も以前はヤハズヒゴタイやタカネヒゴタイと同種扱いされてきたものです。キンブヒゴタイについては次回にくわしく書きたいと思います。

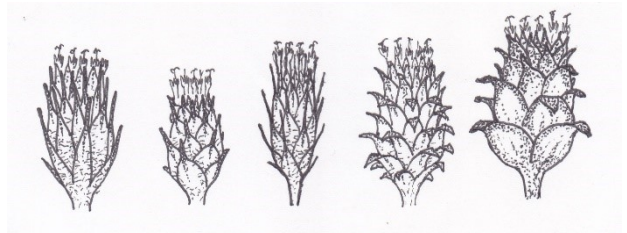


図 左からトウミトウヒレン、ヤハズヒゴタイ、キンブヒゴタイ、アサマヒゴタイ、シラネアザミの総苞

文 献

- 今井建樹, 1992. 信州高山高原の花. 461pp. 信濃毎日新聞, 長野.
Im, Hyon-Tak, 1989. Taxonomic Revision of the *Saussurea nipponica* Complex (Compositae). J. Fac. Sci. Univ. Tokyo III 14: 243-272.
Kadota, Y., 2017. Systematic Study of Asian *Saussurea* (Asteraceae) VIII. Three New Species from Honshu, Japan. J. Jpn. Bot. 92(2): 69-81.
門田裕一, 2017. キク科トウヒレン属. 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩編, 改訂新版日本の野生植物 5, pp.255-271. 平凡社, 東京.
川上美保子, 2018. キク科トウヒレン属の新種トウミトウヒレンについて. 長野県植物研究会誌, (51): 47-50.
Koyama, H., 1995. *Saussurea*. Iwatsuki, K, T.Yamazaki, D.E.Boufford & H.Ohba ed., Flora of Japan IIIb. pp.152-162.
柳沢 孝, 2011. 増補改訂 花かおる湯の丸・高峰高原. 120pp. ほおずき書籍, 長野.